

善光寺記行 堯惠 寛正六年1465年

祭神を手力雄とする最古の文献である。「社頭は北の嶺の半にさしあがりて東に向ひ、大なる岩屋の内へ作り入たり」などの記述からすれば、九頭龍と手力雄の混同があつたのかも知れない。というより、ある者は九頭龍といい、ある者は手力雄といっていたかとも思われる。

「ふさかさかり」は「ふさかさなり」かも知れない。

十五日につとめて宿坊を立かへり土圭の影うつるはかりに戸隠山へいたりぬ二重の瑞籬を拝して奥院へのぼるに畳々たる山の上にくれて中臺に南北ふたつの嶺ありをのく重々に岩をかさねあげて八色をましへたり千峯万山のかたちのうちに異木異草ふさかさなりり或は天人聖衆の妓樂をとゝのへたる所も有併観音薩埵の勝地にてそ侍らむ社頭は北の嶺の半にさしあかりて東に向ひ大なる岩屋の内へ作り入たり彼御神は多力雄にてましますそのこゝろを

瑞籬やしたつ岩ほに杵がねのたてるも神の力とそみる

おなし所にて

吹きおろす嶺のあらしもまきれ行ひよきや谷の戸かくし
の山

註 早稲田大学の古典籍総合データベースで群書類従
を検索。「羣書類従 巻第327-340(紀行部)」を検校
保己一集」の7のPDFで6コマ目に画像がある。

また、国立国会図書館デジタルコレクションで
「群書類従 第拾壹輯」を検索。582コマ目より。

DOI 10.11501/1879538

なお、「信濃史料 八卷」にも翻刻がある。